むれやま荘

岐路（みち） むれやま荘だより Mureyama News

65
2020.3.31

障害者の自立と　より豊かな社会参加を目指して

■発行者
障害者支援施設
滋賀県立むれやま荘
滋賀県草津市笠山八丁目 5-130
TEL: 077-565-0294
FAX: 077-565-0295

生きることが光になる！
glow
社会福祉法人 グロー
URL: http://glow.or.jp/

「むれやま荘」ってどんな施設なの？

施設長　宮川 和彦

「その人らしさ」を大切に、
1人ひとりに合わせた支援を行います。

昔の話ですが、「むれやま荘」という名称から山小屋や山荘と間違えて、宿泊などの問い合わせがあったそうです。今では、そのような間違い電話はありませんが、施設名から障害者支援施設とは想像がつかないのも仕方ないですね。

そこで、この広報誌である『岐路（みち）』を使って、むれやま荘はどんなところか、皆さんに知っていただきたく、簡単ではありますが少し紹介させていただきます。

むれやま荘は、中途障害者（身体障害や高次脳機能障害など）の方がリハビリを行う施設です。昭和59年に身体障害者更生施設として開所され、現在では障害者総合支援法のもとに障害者支援施設となり「自立と、より豊かな社会参加」を目標に支援を行っています。なんと、専門職（セラピストなど）を有する県内唯一の訓練施設であり、当初から数えると1,000人ほどの OB・OG がおられます。

この OB・OG も、むれやま荘の利用にあたっては不安な気持ちで利用されたと思います。例えば「ほんまに良くなるのか」「どんな人が対象なのか」「施設の中はどうなっているのか」「どんなサービスが受けられるのか」「リハビリや訓練内容は」「手続きはどうするのか」「利用料はどれくらいなのか」など、利用を開始するにはいろんな思いがあったことでしょう。10年以上前より、この思いを払拭するため、『サービス説明会』として概要説明と見学会を定期的（3回 / 年）に開催しております。（開催については、医療・福祉機関などへ案内させていただいています。）

利用対象者は若い方や障害福祉サービスの方だけではありません。中高年の方やまた介護保険サービスと併用利用されている方もおられます。むれやま荘では、入所支援と通所支援（ともに利用標準期間は1.5年もしくは2年まで）を実施しており、通所支援について介護保険サービス（デイサービスや通所リハビリ）と併用ができます。むれやま荘を併用していただくことで、アセスメント及びモニタリング支援の協働による自立支援に向けたケアプランの作成や、「その人らしさ」のための幅のあるプランニングが提供できます。

こんな『サービス説明会』を行っておりますので、是非ともご参加ください。職員一同お待ちしております。

※併せて、外部への出張サービス説明も行っております。気軽にお声掛けください。

リハビリプログラム　遂行機能グループワーク

むれやま荘では、個別のリハビリテーションプログラムの他にグループでのリハビリテーションプログラムを行っています。遂行機能グループワークはその一つで、プログラム内で行う事やその内容について、グループメンバーが主体となって話し合いながら企画・計画・実施していき社会生活力を身につけることを目的としています。実際に行い、後で上手くいった事やいかなかった事、次回に活かせることなどを互いに学び合いながら個々のスキルアップを目指していきます。いくら綿密に計画してもトラブルは付き物なのですが、グループメンバー同士で助け合いながらトラブルにも対処しています。本年度は、むれやま荘文化祭での喫茶の企画・運営、長浜の黒壁への日帰り旅行を行いました。障害があっても、活動の制限を受けることなく、その人がしたいことを実現するための技能の獲得に向け今後も頑張っていきます。

利用者コメント

黒壁へ日帰り旅行に行って…

滋賀県生まれ長浜育ちの私が G・W にて仲間 5 人と長浜黒壁散策に行くことになった。長浜駅に着いても昔の面影が全くなく、まるで別の町。昼食に予定してた店を探し出し入ろうとするもなんと、「本日定休日」の看板が目に飛び込み一同茫然。他店で昼食をすまし曳山博物館、フィギュアミュージアムを見てサラダパンを探し終えて帰路に着く。職員の「家に着くまでが遠足よ！」の声が妙に心に残り今も耳に残ってる。

ふと窓から外を見ると春風に乗って桜の花びらが舞っている。

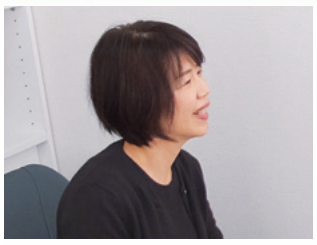
そうだ今週末桜を見に行こう。　　by　しげを

二人歩記
～ふたりあるき～

むれやま荘 OB　奥様
大喜多 宏和さま・照代さまご夫妻

聴き手（むれやま荘 職員）
島田 京子

今回は、平成30年3月に退所された大喜多宏和さんと妻の大喜多照代さんにお越しいただき、お話を伺いました。
大喜多さんは、平成28年9月に自宅で倒れられ高次脳機能障害を後遺されました。
高次脳機能障害のある方は全国に約36万人（2016年度から3年に渡って滋賀県高次脳機能障害支援センターが行った厚生労働科学研究事業「高次脳機能障害者の実態調査」より）おられると試算されています。大喜多さんご夫妻は、ご主人のご病気を夫婦二人三脚で乗り越えて来られています。そんな大喜多さんご夫妻に、むれやま荘の島田がお話をお聞きしました。


◀島田 京子

島田　むれやま荘では、事故やご病気でお体に障害があったり、脳に損傷を受けたことによる障害のある方に利用いただいています。むれやま荘を利用されることとなったきっかけをお聞かせください。

奥様　回復期リハビリテーション病院を2か月で退院し、主人は自宅に帰って来ました。私は元々病院で看護師として働いていましたが、障害を受傷した主人の支えとして生きて行く道を選び、仕事を辞め専属の看護師として二人三脚の生活が始まりました。退院後1か月ほど経った時、私一人の関わりだけでは、主人も私も地域社会との接点が希薄になるのではないかと思うようになりました。私たちが地域の一員として社会とつながることの大切さを感じ、とりあえず市役所の障害福祉課に相談しました。市役所で話を聞いて初めてむれやま荘のことを知りました。市役所では、高次脳機能障害のリハビリを行う福祉施設は県内にここしかないことや、その施設が、自宅のすぐ近くにあることをお聞きしました。福祉施設があることは知っていましたが、どんなことをやっている施設かということは当事者の側の立場になって初めて知りました。本人は退院後2か月間を在宅で過ごしましたが、退院時にむれやま荘の存在を聞いていれば、家族の負担も軽減されていたのにと思います。

島田　退院後在宅に一旦帰られて、ご本人の不安はもちろん奥様の負担も大きかったと思います。退院後の行き先としてもっとスムーズにむれやま荘に繋がっていれば、そのような負担の軽減にもなっていたのでしょうね。では、ご主人様にお伺いします。むれやま荘ではどのようなことを目標に訓練に取り組まれていましたか？

ご本人　むれやま荘では、特に理学療法士による機能訓練を受けたことで、身体的な障害がかなり改善できたと感じていますが、組紐や日本舞踊にも取り組んでいました。組紐や日本舞踊は初めての経験でとても新鮮で、今でも日本舞踊の発表会を観に行ってますし、組紐は妻と一緒に組紐資料館へ立ち寄ったり、組紐台を購入して自宅でもできるようにしています。今では、私よりも妻が一生懸命取り組んでいます。

島田　むれやま荘で訓練の一環として行っている組紐や、ボランティアさんによる日本舞踊が、今では大喜多さんの趣味や、余暇の過ごし方として活かされていることはむれやま荘にとってはとても喜ばしいことです。

更にお聞きします。むれやま荘の訓練で、「こんなことができれば良かったな」と思われることはありますか？ご意見をお伺いしてみたいのですが…。

ご本人　強いて言えば、もっと外に出かけていくような訓練…歩行練習にもなるしと思います。

島田　そうですね、屋内での訓練が多く外に出かけていくような訓練の機会はあまりないですよね。大切なご意見として是非検討してみたいと思います。ここからは、現在のご様子についてお聞きしたいと思います。現在、通われている事業所ではどのようなお仕事をされていますか？また、お仕事をしておられてご苦労されていることはありますか？

ご本人　仕事は、ギフト商品の箱詰め作業が中心で、今は主にこの仕事を行っています。手が遅いので、他の利用者さんに迷惑をかけているのではないかと心配しています。

奥様　主人は、慎重な性格で仕事はあまり早くはないですが、正確な仕事ぶりで休まずに勤務していることを事業所から高く評価していただいています。おかげで雇用契約も更新していただきとても喜んでいます。何より、休まず通えていることがとても大切で、主人にとってもこういう社会との接点を維持できていることが、とても大切なことだと思っています。1日立ち仕事をして、帰宅後は疲れて午睡が日課になりました。

島田　やっぱり、社会との接点を維持し続けることはとても大切なことと改めて感じました。毎日のお仕事は大変で疲れると思いますが、できるだけ長く続けていただければと思います。では、お仕事の無い日はどのように過ごされていますか？

ご本人　妻と散歩や買い物を楽しんでいます。この近辺を中心に、多い時で10kmほど歩いて体力の維持を心掛けています。休みの日も、朝6時30分のラジオ体操で1日が始まります。仕事の日は妻に送迎をしてもらい9時から15時の勤務で、帰って来ると疲れて午睡しています。夜は22時の脳トレのテレビ番組を妻と一緒に視聴して23時には寝ています。

奥様　高次脳機能障害や精神疾患のある方の場合、特に生活を整えることが大切だと実感しています。元々の主人の性格もあり規則正しい生活が送れているのだと思います。

島田　ご主人のご病気に、ご夫婦で支え合って来られたことが伺えるお話でした。同じような話になりますが、奥様にとってもご主人がご病気になられたことで生活環境が変化したと思われます。そのことについてお話しいただけますか。

奥様　主人がクモ膜下出血で倒れた時に、自分が主人の看病をすると決意し、仕事を辞めました。退院後、記憶障害を後遺した主人を一人にしておけず、どこに行くにも常に一緒でした。

島田　高次脳機能障害を受傷すると人格が変わることもあると言われますが、ご主人はご病気になられる前と変わられたと感じられるようなことはありましたか？

奥様　主人は、もともと繊細な性格でしたが、より一層その部分が際立ったように思います。以前はパソコンが得意でホームページを自分で作っていましたが、1つのことに集中すると疲れてしまうようで、今では触ろうともしなくなりました。嗜好が変わったのか疲れるからなのかよくわからないのですが。

島田　言われるように、嗜好が変わったり、脳が疲れやすくなるのも高次脳機能障害の特徴ですね。では、むれやま荘では1年間利用いただき訓練に取り組まれて来られましたが、今振り返られて、むれやま荘に対して何かご意見などはありませんか？例えば、「こういう支援があればもっと効果が期待できたのに」と思われることはありますか？

奥様　主人が退院して、むれやま荘に繋がるのに2か月かかりました。自宅では病院での経験をもとに、私たちで工夫をしてリハビリしていましたが、入院中に退院後の選択肢として、むれやま荘があることを教えてもらえればもっと早く利用につながっていたと思います。医療や福祉の連携が進むことで、とても助けになるご家族もたくさんおられると思います。私はもともと看護師だったので、一定の知識もありやって来られましたが、そうでないご家族は本当に困っておられると思います。
就労への支援も、もっと充実を図ってもらえると

大喜多 宏和さま▲

大喜多 宏和さま・照代さまご夫妻▲

心強い存在になると思います。もともと社会全体で障害者の就労先が少ないという問題もあるのだと思いますが、私たち個人が得ることのできない情報をどんどん発信していただければ有難いと思います。

島田　奥様の言われるとおり、むれやま荘がどういうところなのか、必要になって初めて知られるという方はたくさんおられます。事故やご病気で障害を受傷されたご本人やご家族が困られることのないよう知っていただく努力を強化していきたいと思います。最後になりますが、ご主人から奥様へ、奥様からご主人への思いを教えてください。また、ご主人にはむれやま荘で訓練に取り組んでおられる皆さんにもメッセージをお願いしたいと思います。

ご本人　妻にはたくさん世話になっています。無理をしないで欲しいと思います。

奥様　クモ膜下出血で倒れた時に一度死んだところから生還したと思っています。今は現状を維持して少しでも長く二人で人生を楽しみたいと思っています。

ご本人　むれやま荘で訓練に取り組んでおられる特に若い人達に、視野を広く持って出来るところから経験を積んでいって欲しいと思います。また親御さんには、初めから選択肢を狭めずいろんな可能性を認めてあげて欲しいと思います。

お話を終えて

むれやま荘では毎年30名くらいの利用契約の終了があります。契約を終了された方から改めてこのような話をお聞きすることは少なく、短い時間でしたが支援者としてとても大切な時間であったと思っています。お二人とも、言葉の端々にお互いを思いやる気持ちに溢れた素敵なご夫婦でした。大喜多さんは、むれやま荘でも今通われている事業所でも「いい人に恵まれている」とおっしゃっていましたが、ご自身が周りに良い影響を与えているのではないかと思いました。
奥様がご自身の経験から「生活を整えることが大切だと実感しています」と言われていました。高次脳機能障害のある方の「生活を整える」ことはシンプルでありながら実はとても難しく、でもとても重要なことだと改めて感じました。そして、それをしっかりサポートされている奥様に感銘を受けました。また「もっと早くむれやま荘のことを知っていれば…。」と悔やまれることのないよう、関係機関との連携を強めて切れ目のない支援に努めていく必要を強く感じました。
最後に、高次脳機能障害をはじめとする中途障害について多くの方に関心を持っていただけるような記事を今後も掲載していきたいと思います。むれやま荘を多くの方に知っていただくことを心から願っています。

むれやま荘 利用者の声

成人の抱負　塚田 佑成さん

小さな時は、早く大人になって、デザイナーになりたいと思っていました。でも、それがちょっとずつ厳しいのが分かってきて今では、作業所を目指して頑張っています。その為には、今まで以上に自分でできる事は、自分でやって、できない事は、周りの人に助けを求められるようにしていきたいと思います。

笑顔を大切に　外村 彩さん

私は現在39歳です。記憶にないが脳出血で右手、右足麻痺が残りました。障害者になって、リハビリを中心に頑張っています。どのように対応すればいいのか、勉強して行かなければならないと思うようになってきました。私は、今となっては、障害者です。失語症です。
失語症とは？脳卒中や頭部外傷などの、脳損傷によって起こる脳の言語障害です。例えば「話す」ことだけでなく「聞く」で理解する。「読む」で理解する。「書く」で表現する。など全ての言語様式に障害が及びます。
私のこれからの目標は、「笑顔」です。
これから先も大変な事が多くなるかも知れないけれど明るく元気にやって行きたいです。

文化祭の感想　山本 浩二さん

今年が初めての参加だったので、どんな感じの文化祭なのかな？と考えたりしました。
正直、そんなに盛り上がらないかなと思っていたら、当日は予想外の盛り上がり！ 驚きました。職員さんの頑張りでいろいろなイベント、出店など大盛況！
自分自身は今回はグループワークの一環としてドリンクの企画、販売に参加し、文化祭全体はあまり見れなかったけど盛り上がってるなとは肌で感じました。
ラストの和太鼓は迫力満点ってのが印象に残りました。